

# ロックダウン開始から現在までのMJSの取り組み

1. 「**Googleドライブ**」での先行学習課題の配信（4月）
2. 「**Zoom**」（Web会議システム）を用いたオンライン授業（～現在）
3. 「**Google Classroom**」での課題配信・回収（～現在）
4. 「**すらら**」（無学年式オンライン教材）の導入（8月～）
5. Zoomなどを使用したオンライン職員会議・校内研修（随時）
6. PTAによるGoogle Classroomの運用（10月～）

オンデマンド型



# Zoomでの**双方向型**オンライン授業

- 1学年につき、1～2つの有料アカウントを取得して運用している。

## 保護者の負担軽減

- わからないことはその場で質問
- 対面授業に近い形態
- 教科指導はなるべく授業内で

## ブレイクアウトルームを積極的に活用

- グループでの話し合い活動
- **Jamboard**と組み合わせて、グループでの活動



# Googleの各種サービスの活用

G Suite for Educationに登録（無料）し、  
全校児童生徒のG-mailアドレスを取得&配付した。

例) [2019.lastname.firstname@mjs.ph](mailto:2019.lastname.firstname@mjs.ph) : [入学年.苗字.名前@mjs.ph](mailto:入学年.苗字.名前@mjs.ph)

## GoogleClassroom

- ・課題やテスト、配布物の配信
- ・課題やテストなどの提出

## Googleドライブ

容量無制限の  
オンラインストレージ

## Googleフォーム

- ・アンケートの回収
- ・簡易テストや  
振り返りシートの回収

## Jamboard

オンラインホワイトボードアプリ

- ・ドキュメント
- ・スプレッドシート
- ・スライド

などの各種Googleサービス

## オンライン授業の課題

1. 児童の手元にある教材の不足
2. 保護者への負担
3. 家庭の端末やネット環境の差
4. ノート指導

## ICT機器活用に関する課題

1. データの取り扱いについて著作権や肖像権など。

# 今後のICT活用の可能性

1. 1人1端末の活用
2. 音声読み上げ機能の活用
3. GoogleClassroom運用の継続
4. デジタル教科書の活用

# iPadやChromebookの導入に向けて

## iPadの有用性

マウスやキーボードを用いない、直感的な操作が可能である。

タッチキーボードの設定で、50音表をタップして文字入力を行うことができる。

**低学年の児童でも  
操作が可能**



## Chromebookの有用性

Googleの各種サービスとの親和性  
Androidアプリがインストール可能

今後のアップデートで、  
Windowsアプリもサポートされる？

**iPadに比べて  
できることの幅が広い**



# OSの種類に左右されないデジタル教材を

現在主流のOS : iOS(iPadOS), Google Chrome OS, Windows

1. 各OSでサポートされているソフトウェアを選択する。
2. 各種ブラウザで起動するWebアプリを選択する。

△Webアプリだと、地理的制限を受ける場合がある。

△古いWebアプリだと、Flash Playerが使用されている場合がある。  
(2020年末でサポート終了)

 教員間・学校間の知見の共有につながる

# デジタル教科書のこれまで以上の活用

例) まなビューア (国語) : 光村図書

1. 音声読み上げ機能
2. 挿絵の表示
3. 教科書への書き込み (次時でも表示が可能)
4. 漢字の学習教材
5. 分かち書き本文 (PDF)
6. 読み仮名付き本文 (PDF)

児童用端末にもインストールし、  
活用していきたい

